

見学調査報告書

テーマ : 明治期の日本建築に見られるイギリスの影響
ゼミ名 : 福西 由実子 ゼミ
調査日 : 2024年6月24日(月)
調査先 : 迎賓館赤坂離宮、旧岩崎邸庭園、三菱一号館、東京駅丸の内駅舎
授業科目名 : 国際教養演習 I
参加学生数 : 12名(3年)、2名(4年)

調査の趣旨(目的)

イギリス出身の建築家、ジョサイア・コンドルは東京でどのような建築物を残し、彼の日本人の弟子やその後の日本建築文化にどのような影響を及ぼしたのか。東京周辺に現存する関連建築物に直に触れることで、明治期以降の日本とイギリスの関係について学ぶ。具体的には、コンドルによる建築(旧岩崎邸および三菱一号館)、彼の弟子である辰野金吾による建築(東京駅丸の内駅舎)、同じく片山東熊による建築(迎賓館赤坂離宮)を訪れる予定である。

調査結果

明治10年に25歳で来日し、工部大学校(現・東京大学工学部)造家学の教師となったジョサイア・コンドルと彼の弟子たちによる建築物を見学調査した。彼のもとから、辰野金吾を筆頭に、明治期日本の建築近代化をけん引する“建築家第一世代”が巣立っている。例えば辰野はコンドルの後を継ぎ、工部大学校の教師に。片山東熊は宮内省に入り、宮廷建築を数多く設計している。

調査当日は外気温34度という酷暑の中であったが、ゼミ生全員が参加することができ、地下鉄・バス・徒歩で、各建築をめぐる。最初に四ツ谷駅で集合した後、「迎賓館赤坂離宮」本館・庭園を見学した。日本で唯一のネオ・バロック様式で、バッキンガム宮殿を参照したことで有名な本館は、明治以降の建築としては唯一、国宝に指定されている。明治42年に東宮御所として建設され、戦後、日本の国際社会への復帰に伴い、国の迎賓施設として生まれ変わったものである。時代の変遷とともにその役割を変えてきた迎賓館を見学しながら、近代以降の日本の外交史をも振り返る良い機会となった。

続いて湯島に移動し訪れた「旧岩崎邸庭園」は、現在都立庭園となっている。三菱財閥岩崎家の茅町本邸だった建物とその庭園を公園として整備したもので、園内の建造物は国の重要文化財に指定されている。明治11年に完成した洋館は、17世紀初頭にイギリスで流行したジャコビアン様式を基調としつつペランダにはコロニアル様式が採用されている。建物内を自由に見学させていただき、和館でお茶と和菓子をいただいて一息つく。

最後に丸の内に移動し、かつて一丁倫敦と呼ばれたエリアを訪れる。あいにく「三菱一号館」は改修中で全ての外観を視認することは叶わなかったが、すぐそばの「東京駅丸の内駅舎」では、クイーン・アン様式の視覚的特徴であるレンガの赤色と白い石材(テラコッタ)

が縦横に配される鮮やかな壁面を確認することができた。

今回訪れたいずれの歴史的建造物にも、様々なイギリスの建築デザイン様式が取り入れられていること、また随所に日本独自の意匠を見出すことができた。来春に実施するロンドンでの実態調で、今回見学した作品の元となった建築様式を実際に見学することが非常に楽しみである。



旧岩崎邸庭園(ジョサイア・コンドル建築)



迎賓館赤坂利休(片山東熊建)



東京駅丸の内駅舎(辰野金吾建築)